

グランシップ 子どもアート体験! 学校プログラム

たくさんのお子様たちに本物の芸術をお届けする、アウトリーチ活動を実施しています。



伝統芸能普及プログラム 「国立劇場 歌舞伎鑑賞教室」 事前レクチャー

2026年5月13日(水) 静岡学園中学校3年生98人
2026年6月12日(金) 島田市立金谷中学校2年生137人
2026年6月16日(火) 富士市立富士中学校1年生190人
講師: 国立劇場制作部 歌舞伎制作課
長瀬千宜、日野慎也、大久保慧人

グランシップで開催している伝統芸能公演をより深く鑑賞するために、その文化が持つ歴史や魅力を伝える事前レクチャー。今回は、6月にグランシップで開催する「国立劇場 歌舞伎鑑賞教室」に来場する学校の中から、静岡学園中学校、島田市立金谷中学校、富士市立富士中学校で実施。国立劇場で公演の制作にあたる職員が、歌舞伎の基礎知識や6月の鑑賞教室で上演される演目について説明しました。

静岡学園中学校でのレクチャーの冒頭、スライドに映し出されたのは「定式幕」。講師の「どこか見たことがありますか?」という問いかけに、「生徒からは「歌舞伎揚げ」と声が上がりました。身近なところにある歌舞伎を入口に、レクチャーがスタート。まずは歌舞伎の基本として、男性が女性を演じる「女方」や、登場する人物の役柄を表す化粧「隈取」などについて解説が行われました。

また、歌舞伎の大きな特徴である「音楽」の解説では、今回講師が特別に国立劇場から持参した、実際に公演で使われている道具を用いた「生音」に、代表の生徒が挑戦。「小雨が降り始め、蛙が鳴き出

し、やがて大雨へ。そして静かに雨が上がっていく…」という情景を、「雨団扇」や貝殻を使って表現しました。

質疑応答の時間には、舞台装置などに関する「その他、歌舞伎俳優には何年くらいでなれますか?」といった職業についての質問が挙がり、実際に歌舞伎の現場に身を置く職員へ直接質問する貴重な機会となりました。

6月の上演演目は、歌舞伎の名作『仮名手本忠臣蔵』。講師から登場人物やあらすじが紹介されると、「この後、どうなるのか?」と期待が高まります。物語の結末、その続きは、グランシップの舞台上で鑑賞します。

グランシップでは、これからも県内各地の学校で、子どもたちが日本の伝統芸能に触れ、親しむ機会を創り出していきます。

普段馴染みのない歌舞伎について興味を持つきっかけになりました。(生徒)



歴史の授業や自分で読んだ本で学んだことが出てきて、「それが歌舞伎につながっているのか!」と興味深く思いました。(生徒)

雨の音を表現する体験の時、目をつぶると本当に雨の音やカエルの鳴き声が聞こえて面白かったです。(生徒)



日本の伝統芸能を学べてよかったです。日本の文化をもっと知ろうと思いました。(生徒)

